国際理解教育/開発教育　学習指導（活動）案

【実践者】

授業者氏名	太田健司	学校名	足立区立江南中学校
教科（科目）・領域	社会科	対象学年（人数）	１年　A 組（　２５名）
実践年月日もしくは期間（時数）		令和５年１０月　　～　１１月（　６時間）	

【実施概要】

1. 単元名(活動名)：世界の諸地域～アフリカ州～

2. 実践する教科・領域：

社会科
「世界の諸地域～アフリカ州～」

通常の単元構成に加え、第４時に「アフリカから学ぶよりよい社会のつくり方」を実施する。

3. 学習領域

	1	2	3	4
A多文化社会	文化理解	文化交流	多文化共生	
Bグローバル社会	相互依存	情報化		
C地球的課題	人権	環境	平和	開発
D未来への選択	歴史認識	市民意識	社会参加	

4. 単元の目標（評価規準を意識して設定）：

【知識・技能】　資料からアフリカ州の特色を読み取り、アフリカ州の人々の生活や産業の特色を歴史的背景もふまえて理解している。

【思考・判断】　アフリカ州の特色や課題を追及するとともに，その原因や解決策について多面的多角的に考察し、持続可能な社会の実現に向けて選択・判断している。

【学びに向かう力】　アフリカ各国のSGDｓ達成度や日本との違いに着目しながら，アフリカ州の地域的特色に関心を高め、持続可能な社会の実現方法を主体的に追究しようとしている。

5. 単元の評価規準	①知識及び技能	アフリカ州の特色やそこに暮らす人々の生活や産業の特色を理解している。
	②思考力、判断力、表現力等	アフリカ州の特色や課題、その原因や解決策について、多面的多角的に考察・判断し、適切に表現している。
	③学びに向かう力	アフリカ州の課題だけでなく良い点も学び、持続可能な社会の実現方法を追求し、実際に行動しようとしている。

6. 単元設定の理由・単元の意義 （児童／生徒観、教材観、指導観）	【単元設定の理由あるいは単元の意義】 本単元は、大単元「世界の諸地域」の中で「アフリカ州」について学ぶ単元である。アフリカ州の地理的特色や、そこに住む人々の生活の特色などについて理解する事を目標とする。またアフリカ州で見られる地球的課題の原因や影響・解決方法を、地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察させる。 これらの学習を通して、「グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者」を育成することを目指す。 【児童／生徒観】 大単元「世界の諸地域」の学習は、アジア州、ヨーロッパ州を終えている。教科書やタブレットＰＣを使った調査や知識を基に社会の在り方について考えを深める学習にはすでに習熟している生徒が多い。アフリカ州についても、担任・教科担当である私が昨年度までＪＩＣＡ海外協力隊としてウガンダで活動していたことから、高い関心をもっている。 しかしながら、世界の課題についてまだまだ“タニンゴト”にしかとらえられない生徒が多い。アジア州やヨーロッパ州の課題について学習した際の感想には「自分も解決のために何か行動したい」などと書く生徒はいるものの、実際の生活の中では食品廃棄（食べ残し）、無駄な電力消費（エアコンや電灯のつけっぱなし）などが多くみられる。世界の課題を“ジブンゴト”ととらえ、その解決のために行動できる人間へと成長してほしいと願っている。 【教材観】 アフリカ諸国は、どうしても「発展途上国＝貧しい国」ととらえられがちで、教科書も全体的に「いかに大変な暮らしをしているか」という視点でアフリカを描いている。もちろんそうした側面はあり、貧しさやその原因について学ぶことも必要である。しかしながら、これはアフリカの一側面でしかないし、「日本は支援してあげる国、アフリカは支援される国」というステレオタイプな考え方は、持続可能な社会を作っていくうえで障壁にしかならない。「助ける、助けられる」という上下の関係ではなく、双方の良い点を活かしあうという横並びの関係、「共創」の関係を築くことが、持続可能な社会を作っていくために必要なことだろう。 そのため本単元では教科書による基礎的知識の学習の後、「持続可能な開発レポート2023（https://dashboards.sdgindex.org/）」を用いて、SDGｓの視点からアフリカ諸国の良い点を探す学習を行う。アフリカ諸国には「12.つくる責任、使う責任」、「13.気候変動に具体的な対策を」の評価が高い国が多い（日本はこれらの項目の評価が低い）。「持続可能な開発レポート」を使った調査でこのことを発見させることで、持続可能な社会の実現のためには「助けてあげる（寄付をする等）」ことだけでなく、「相手（アフリカ）から学ぼうとする」ことも大切なのだということに気付かせたい。 【指導観】 教科書でも「持続可能な開発レポート」でも、なるべくこちらからの直接的な説明は避け、自分たちで調査させる。そうすることで自ら特色や課題に気付き、追及や実際の行動変容への意欲が高まるものと考えている。 また調査は小集団を基本に行うことで、意見交流を活発にさせる。自分とは異なる意見を聞くことで、多面的多角的な思考力を身に付けることができると考える。また調査や思考が苦手ない生徒にとっては、誰かに助けを求める場にもなりうるだろう。その際、自分とは異なる意見を、頭から否定するのではなく、異なる理由を考え議論を深めるきっかけにするように指導する。これは【教材観】にも記した「相手から学ぼうとする」ことにもつながる。 教員は極力ファシリテーターに徹するようにする。もちろん知識の獲得を重視した授業では教師からの解説が必要になるが、それ以外の場面ではなるべく解説をしないように心がける。ただし、単純な理解や思考で終わらないようにするために、適宜「なぜ？」や「こういう場合は？」など、生徒の思考をゆさぶるような発問を投げかけるようにする。

7. 単元計画（全５時間）

※全体の総時間数や「本時」の記入場所は適宜変更してください。

時	ねらい	学習活動	資料など ※：JICA リソース活用はここに記載
1	【アフリカ州の自然環境】 赤道をはさんで南北に広がる広大な範囲を概観し，地形や気候を中心に，アフリカ州の国々や自然などの基本的な特色を理解させる。	地図や雨温図を活用して，アフリカ州の地形や気候の特色やその課題について調査・考察する。	教科書 地図帳
2	【アフリカ州の文化】 アフリカの文化の特色や変化について，歴史的背景やヨーロッパとのつながりに着目しながら理解させる。	アフリカ州の文化について、ヨーロッパとのつながりの歴史の観点から調査・考察する。	教科書 地図帳
3	【アフリカ州の産業】 アフリカの産業の実態や課題について，その変化に着目しながら理解させる。	アフリカの産業の特色や課題について、産業分布のかたよりの観点から調査・考察する。	教科書 地図帳
4 本時	【アフリカ州から学ぶ SDGs 達成のためにできること】 日本がアフリカ諸国から学ぶべきこと、日本がアフリカ諸国に教えられることについて考察させる。	「持続可能な開発レポート 2023」を用いて、担当する国を調査し、日本と比較しながらその特色を考察する。またそれをもとに「日本がその国から学ぶべきこと」「日本がその国に教えられること」を追求する。	「持続可能な開発レポート 2023」
5	【章末レポート】 本単元で学んだことを活用しながら、持続可能な社会の実現方法を追求させる。	「アフリカから学ぶ SDGs 達成のためにできること」というテーマでレポートを執筆する。	なし

8. 本時の展開（概略）

本時のねらい：【アフリカ州から学ぶ SDGs 達成のためにできること】

持続可能な開発レポートを用いて、担当する国を調査させ、日本がアフリカ諸国から学ぶべきこと、日本がアフリカ諸国に教えられることについて、日本とアフリカの比較から追求させる。これによって、持続可能な社会の実現のためには「助けてあげる（寄付をする等）」ことだけでなく、「相手（アフリカ）から学ぼうとする」ことも大切なのだということに気付かせる。

過程・時間	教師の働きかけ・発問および学習活動（S:予想される生徒の反応）	指導上の留意点（支援）	資料（教材）
導入 （5 分）	1.本時のテーマの確認 ・今までに学んできたアフリカの課題にはどのようなものがあっただろう？ S：砂漠化、植民地、差別、貧困、モノカルチャー経済、食料不足 ・日本と比べて、アフリカは「よい社会」だろうか？ ・では、日本がアフリカから学ぶことはないだろうか？ →テーマの提示	・前 3 時間の内容を振り返らせる。 ・上の発問と続けることで、課題が多いことに気付かせる。 ・特に答えは聞かず、疑問をもたせたまま進行する。 ・ワークシートを配布し、所定の欄にテーマを記入させる。	・自作ワークシート（授業プリント）

	アフリカから学ぶ「SDGs 達成のためにできること」とは？		
展開 （35分）	2.「持続可能な開発レポート 2023」の調査 ・「よい社会」の基準として SDGs がある。その達成度を比べてみよう。 →ＨＰの提示	・ワークシートに QR コードを載せておき、タブレットを用いてすぐにページを開けるようにする。	・「持続可能な開発レポート 2023」（WEB 資料のため、タブレットで閲覧）
	・班ごとに担当する国を決めよう。 →ワークシート記載の５か国から選ぶ。（ウガンダ、ケニア、ナイジェリア、ガーナ、マダガスカル）	・緑になっている項目と、赤になっている項目に着目させ、ワークシート上でマトリックス分析を行わせる。	・ワークシート３）のマトリックス分析欄
	・担当する国と、日本を比べてみよう。	・各班に簡単に発表させ、多くの国で SDGs12,13 の達成度がアフリカ諸国の方が高いことに気付かせる。	
	・どのような違いがあったかな？ S：日本の方が良いと思っていたけど、負けている部分もある。SDGs12,13 がアフリカの方が高い。	・Think→Pair→Share の流れで意見を共有する。	・ワークシート４）の所定欄
	3.違いの原因の追求 ・なぜこのような違いが生まれるのだろう？ S：日本は経済発展を重視しすぎて、環境を汚しているのではなか？ アフリカは経済的に発展していない分、きれいな環境を残せているのではないか？ 日本は輸入が多いから、その分 CO2 排出量が多くなっているのではないか？		・ワークシート５）の所定欄

まとめ （10分）	・では、SDGs の達成度を高めるために日本がアフリカ諸国から学べることはなんだろう？ S：環境を守るためには、経済発展ばかりに目を向けてはいけない。 輸入にばかり頼りすぎず、日本で作ったものを消費すれば、その分 CO2 排出量を減らせる。 ・逆に日本がアフリカ諸国に教えてあげられることは何だろう？ S：子どもを働かせるのをやめて、学校に通わせてあげるべき。 道路を作って、農村までモノを運べるようにするべき。 4.本時の学びの確認－行動宣言をしよう－ ・（講話）アフリカ諸国の方が優れている点があった。「助けてあげる」と考えるんじゃなくて「助け合う、学びあう」と考えることが大切だと思う。 ・まとめとして「アフリカから学ぶ SDGs 達成のために自分ができること」を、自分の行動宣言として書いてみよう。 S:なるべく日本で作られたものを買うようにする。 自分の便利さではなく環境のことを考えて、電気やエアコンを使いすぎないようにする。 ・最後に振り返りを書こう。振り返りは今日の授業でわかったことや学んだことを、Forms に入力しよう。 S:日本の方が発展していると思っていたけど、アフリカの方が優れている部分もあって驚いた。 アフリカは遅れているというイメージだけではだめだと思った。日本もアフリカから学ぶことがあるのだとわかった。	・タブレットは閉じさせ、発表をよく聞くように促す。 ・自分の行動変容につながるよう、実際に出来ることを書くように促す。 ※足立スタンダードに沿って、まとめと振り返りを分けて行う。	・ワークシート６）の所定欄 ・タブレット（Google Forms）

9. 評価規準に基づく本時の評価（評価方法） アフリカ州の課題だけでなく良い点も学び、持続可能な社会の実現方法を追求し、実際に行動に移そうとしているか。（ワークシート）
10. 学習方法および外部との連携 JICA 地球広場の見学を行った際、SDGs の達成度を示すパネルを見せていただいたことから、本時の活動を考え付いた。WEB サイトを使って自由に調査・比較することで、特色や課題を“ジブンゴト”として発見できるのではないかと考える。 マトリックス分析は思考ツールの 1 つであり、普段の授業から活用しているものである。枠に当てはめて考えることで、考えを整理しやすくなるとともに、同じ枠で考えた他の生徒との意見の違いも浮き彫りになるため、話し合い活動もしやすくなる。 「Think→Pair→Share」は協力隊で派遣されていたウガンダで学んだ学習方法である。日本でもよくある「個人で考える→小集団で共有する→全体に発表する」という流れのことではあるが、本授業が「アフリカから学ぶ」というコンセプトのため、この表記とした。
11. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取り組み ・本指導案を職員室内で配布し見学を促す。・小中連携研修会と合わせて実施することで、小学校の教員にも国際理解教育の実践を広める。・今回の研修でいただいた資料を職員室の見やすい場所に置くことで、興味のある教員が閲覧しやすいようにする。・研修のまとめプリントを作成し、職員・大学院の同期生等へ配布する。

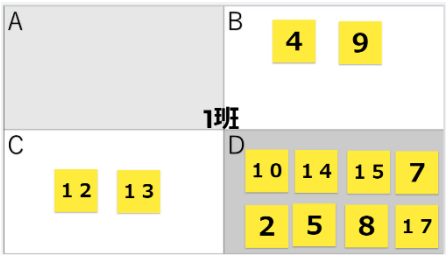
【自己評価】

12. 苦労した点	※学習活動が展開する中での苦労や、そこで見えてきた問題点を記入して下さい。 １）本時について 「持続可能な開発レポート」について、事前の分析に手間がかかった。 当初、マトリックス分析をする際に着目する SDGs マークの色（達成度）を「緑」「赤」だけにしていたが、それだと分析にかけた際にマトリックス内に記入できるもの（日本もアフリカ諸国も緑、など）がなくなってしまい、その後の展開につなげられなくなってしまうことがわかった。そのため研究授業本番では、「オレンジ」にも着目させるように変更した。 また、選ぶ国によって分析の結果が変わってきてしまう。そのため、何を伝えたいか、偏りはないかといった視点からよく確認したうえで、国を選ぶ必要があった。 こうした事前の分析（実際にマトリックスをつくってみる、など）には、大きな手間がかかった。 ２）単元を通して 自分自身が JICA 海外協力隊としてアフリカに派遣されていたからこそ感じることだが、「アフリカ州」というかたまりで教えることに難しさを感じた。広大な大陸であり、地域によっても国によっても、国内の場所によっても文化や特色は異なる。つい「アフリカは」と言ってしまうが、こう言ってしまうことで生徒たちに認識を誤らせてしまうのではないかと感じた。とはいえ、細かな違いを教えることは本単元の目的ではないし、余計な混乱を生んでしまいかねない。このバランスをどうとっていくべきか、悩みながらの実践となった。

<table>
<tr>
<td>13. 改善点</td>
<td>
※実践を再度実施することや、他の学校で追試する場合のことを想定して、改善点を示して下さい。
１）「持続可能な開発レポート」で着目させる SDGs マークの色（達成度）を工夫する。「緑」「赤」に加えて、伝えたい内容によって「オレンジ」や「黄色」にも着目させないと、ワークシートのマトリックス分析が成り立たなくなる可能性がある。
<table>
<tr><td></td><td>調べた国が緑の項目</td><td>調べた国が赤の項目</td></tr>
<tr><td>日本が緑の項目</td><td>A</td><td>B</td></tr>
<tr><td>日本が赤の項目</td><td>C</td><td>D</td></tr>
</table>
左のマトリックスの「赤」を「赤やオレンジ」のように変更することで、多くの項目をマトリックスに書き込めるようになる。書き込める項目がある程度の量あった方が、生徒のモチベーションにもつながるし、その後の思考にも深みが出る。

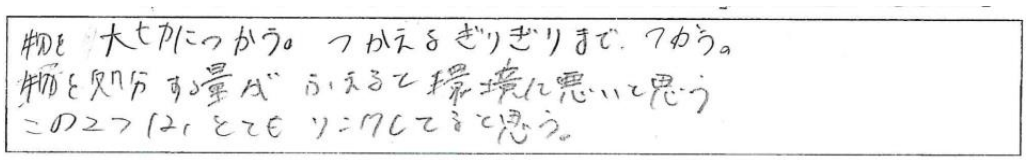
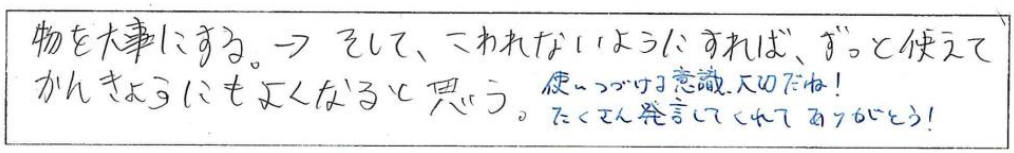
２）「違いが生まれる理由」は、「持続可能な開発レポート」からの分析ではなく、予想で書かせる程度でもよかったかもしれない。細かな点を深堀りすることよりも、「日本もアフリカ諸国から学べることがある」ということに気付くことが本授業の目的である。レポートを読み取らせようとしたあまり、時間を使いすぎてしまった。予想で意見を出させて教師から補足する程度にした方が、時間もかからず良かったのではないかと感じる。

３）授業の最後の項目を「明日の自分に提案しよう！『アフリカから学んだ SDGs 達成のために自分ができること』」として、世界の問題を“ジブンゴト”ととらえられるようにすることを狙ったが、あまりうまく機能しなかったように感じる。単純に「自分がアフリカから学んだこと」などの項目にした方が、生徒にとっては書きやすく、発想も広がりやすかったのではないか。
</td>
</tr>
<tr>
<td>14. 成果が出た点</td>
<td>
１）ステレオタイプからの脱却
「日本は支援してあげる国、アフリカは支援される国」というステレオタイプな考え方から脱し、「助け合う」ことの大切さに気付けた生徒が多くいた。ワークシートの書き込みには「どっちが上とかじゃなくて、どっちも平等に助け合う」「発展が遅れているから上から目線とかではなく、どの立場も公平でお互い学ぶことがある。だから改めて国境を越えて協力するのは大切だと感じた」などのコメントが見られた。
また、教科書で学習してきた「貧しいアフリカ」のイメージを覆して、「日本もアフリカから学ぶことがある」と印象付けることができた。最初から私が経験を話すのではなく、生徒たち自身が調査活動を通して「学ぶことがある」と気づいたことで、より深い学びになったのではないか。
</td>
</tr>
</table>

<table>
<tr>
<td></td>
<td>
2）Jamboard によるマトリックス分析


マトリックス分析はプリントへの書き込み、およびタブレット端末で Jamboard を用いて行わせた。これにより番号を動かしやすくなり、分析が容易になった。また容易に動かすことができるため、間違いを気にすることが減り、どの生徒も話し合いに参加しやすくなった。

3）タブレット端末上の「持続可能な開発レポート」の使用

タブレット端末上で「持続可能な開発レポート」を開かせたことで、様々なデータにアクセスしやすい状況をつくることができた。様々なデータにアクセスしやすい状況をつくれたことで、生徒たちが興味を持った項目についてより細かく調べたり、指定された国以外の状況も調べ始めたりする様子が見られた。画面をタッチすれば簡単にデータにアクセスできること、SDGs の達成度を色分けして見やすく整理してあることで、生徒の興味・関心を高めることができたと感じる。使い勝手にはやや難があるが、調査活動の教材、関心を高めるための教材としては、非常によいウェブサイトであった。
</td>
</tr>
<tr>
<td>15. 学びの軌跡（児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど）</td>
<td>
※この単元における学習者の変容が読み取れることを意識して下さい。記入者が文章記述を通して「このように変容した」と教師の言葉でその見取りを書くことも可能ですが、できる限り学習者本人の言葉や作品で示していただくことにより、具体性、説得性の高いものになります。
1）SDGs12,13
SDGs12,13 の改善に向けた意識を高めることができた。これらの項目は、アフリカ諸国では達成率が高く、日本では達成率が低い。このことに気付かせたうえでウガンダの子どもたちがバナナの木の皮で作った人形の写真を見せたことで、物を大切にすることが環境問題の解決につながると、実感させることができた。ワークシートには、今後の行動につながりそうなコメントも多くみられた。
↓ワークシート（6）より

物を大切につかう。つかえるぎりぎりまで。つかう。
物を処分する量が ふえると環境に悪いと思う
この2つは、とても リンクしてると思う。

物を大事にする。→ そして、こわれないようにすれば、ずっと使えてかんきょうにもよくなると思う。
使いつづける意識、大切だね！
たくさん発言してくれてありがとう！
</td>
</tr>
</table>

<table>
<tr>
<td></td>
<td>
すぐに物を捨てたり、学校の給食でも残飯が普通みたいにあったりするから
そういうことを無くしていけばいいのかなと思った。
使える物は再利用をするなど取り組めることも探してみたいと思った。

アフリカの人たちみたいに、そこらへんにある木の実や、木の皮？で
人形をつくったり、それだけでたのしめるのがすごいいいなと思いました。
今後、物を買ったりするときは、無駄なものはかわないで、大切に使いたいです。

２）ステレオタイプからの脱却
14.成果が出た点にも記載したが、「アフリカ＝貧しい」「日本はアフリカを助けてあげる立場だ」といったステレオタイプな考え方から脱却できた生徒が多くいた。「助けてあげる」ではなく「助け合う」ことが大切であるという点は、私自身が最も伝えたかったことでもあるため、こうした変容は授業の目的の達成にもつながったと感じる。
↓授業の振り返りアンケートより

SDGsの項目で日本のほうが発展している項目はたくさんあるけど、アフリカのほうが発展している項目もあるから、そっちの方にも目を向けることは大事だなと思った。
上とか下とか関係なくという話はすごく良いなと思った。

国それぞれに課題があるから、平等に協力して課題をなくすことが大切だとわかった。

自分たちだけが手を差し伸べている気にならないで、相手から学べることそして改善すべきことをしっかりと考えておきたいです。

今日調べた国にはいくつもの課題が残っていて、日本が教えられることもあれば、教えてくれることもあることに驚きました。困っている人には助けてあげたいけど、でも先生が言っていたように日本が困っている人を助けて「あげる」とかは、また違うのではないかという話を聞いて、もう一度考え直したいなと思いました。あとは、ケニアと日本の生産と消費の差が大きいので、リサイクルするとか、フェアトレードの商品を買って少しでも消費者の人にと届けばいいなと思いました。アフリカは、そこらへんにある木の皮を使って人形とかを作って遊んでいることを知って、物を買ったときは大切に使うことが大切だなと思いました。

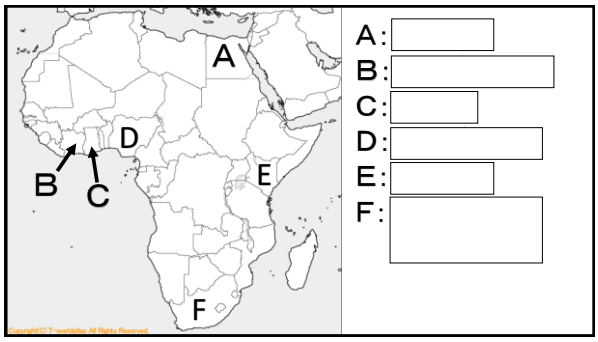
アフリカ州は今まで貧相で暮らしにくいところだと思っていたけれど、日本とのSDGｓを比べるとお互いに教えられることがあるということがわかった。また、お互いに達成できていないところも共有できるのではないのかと思った。
</td>
</tr>
<tr>
<td>16. 授業者による自由記述</td>
<td>
「強い思いをもって自分の経験を伝えようとすると、偏った切り取り方になってしまう。」
8 月の研修の際にこう聞いたとき、はっとした。私が今回の研修に参加した背景に「私自身の JICA 海外協力隊経験を教材化したい、伝えたい」という思いがあったからだ。私は 2023 年 3 月まで、ウガンダに協力隊員として派遣されていた。そのため、ウガンダで得た経験を教材化して生徒たちに伝えたいという思いを強くもっていたのだ。しかし研修で上記の言葉を聞いて、確かに自分の話をするだけでは、強い思いがあるからこそ、「偏った切り取り」をしてしまいかねないと考えるようになった。
では、「偏った切り取り」にならないためにはどうするか。生徒たちが自分たちで調べ、日本とアフリカ諸国の違いや、アフリカ諸国の優れた点に気付けるようにすればよいのではないか。こう考えたときに活用できそうだと思ったのが「持続可能な開発レポート」であった。8 月の研修の際に「JICA 地球ひろば」の SDGs 達成度を色で表す展
</td>
</tr>
</table>

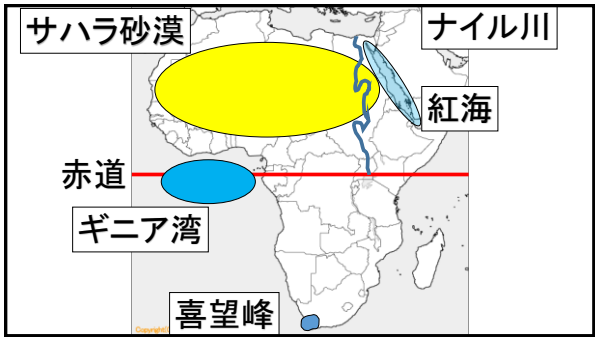
	示を見せていただいた。この展示が「生徒が自分たちで調べて、気づける授業をつくりたい」という思いとマッチし、今回の授業が生まれたのだ。 　とはいえ、せっかくの協力隊経験から伝えたいものはある。そこで、生徒たちが調べて気付いたものへの補足として私自身の話をするという形をとった。私が特に伝えたかったことは「『アフリカは貧しくてかわいそう』という認識は間違いで、日本がアフリカから学ぶことだってたくさんある」ということ、そして「助けてあげるのではなく助け合うことが大事だ」ということだ。アフリカとか国際協力と聞くと、どうしても募金やモノの寄付など、「助けてあげる」ことに目が行きがちである。しかし協力隊の経験を経て、「助けてあげる」という意識は相手をバカにした考えであり、対立につながるということに気付いた。日本人の私とウガンダ人との間にあるのは単なる「違い」であり、ウガンダ人の考え方や文化が「間違い」というわけではないのだ。だから「助けてあげる」＝間違いを正してあげるという認識は、それこそ間違っている。私が「違い」から学ぼうとすれば、相手も同じように学ぼうとしてくれる。そうすれば学びあい、助け合いの良い循環が生まれ、世界がよりよくなっていく。この「助け合う」という考え方は、国際理解にとっても非常に重要なことではないだろうか。 　今回、生徒に「持続可能な開発レポート」を調べさせて日本とアフリカ諸国との「違い」に気付かせることができた。そしてこの活動を中心に据えたことで、私自身の経験を話す時間は最低限にとどめながら、効果的にメッセージを伝えることができた。このような実践ができたのは、8 月の研修で様々なことを学ばせていただいたからだ。研修を用意してくださった JICA や Gift の方々、講師を務めて私に重要な気づきを与えてくださった先生方、教材を発見させてくれた JICA 地球ひろばのスタッフの方々、そして共に学んだ各地の先生方に、感謝申し上げたい。

参考資料：

※単元を構想、実施する上での教師のための参考資料、学習者のための参考資料、ウェブサイト、データリソースなどを紹介してください。

Sustainable Development Report 2023 (https://dashboards.sdgindex.org/　令和 5 年 8 月 20 日取得)

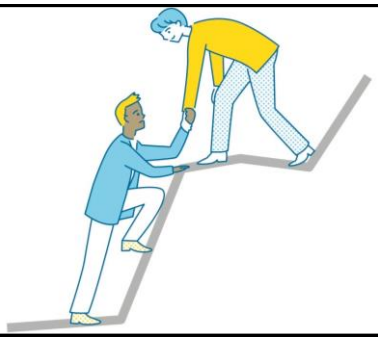




世界の諸地域　アフリカ州

～アフリカ州のSDGs～

アフリカから学ぶ「SDGs達成のためにできること」とは？



地理 No.00	世界の諸地域　アフリカ州 ～アフリカから学ぶ SDGs 達成のためにできること～	年　組　番 氏名

▽テーマ

アフリカから学ぶ「SDGs 達成のためにできること」とは？

1）班ごとに調べる国を決めよう

・ウガンダ　・ケニア　・ナイジェリア　・ガーナ　・マダガスカル

2）「持続可能な開発レポート 2023」にアクセスしよう

①右の QR コードを読み込む
②英語のサイトなので、Google 翻訳で日本語にしてもらうと便利
③「データを探索する」をクリックする
④調べたい国をクリックすると、画面下のアイコンの色が変わる
⑤SDGs の項目ごとに調べたい場合は、画面下のアイコンをクリックする
⑥「スピルオーバースコア」を押すと、元の画面に戻る

3）SDGs の達成度を比べてみよう

	調べた国が緑の項目	調べた国が赤の項目
日本が緑の項目	A	B
日本が赤の項目	C	D

4）違いが生まれる理由を考えよう。　※持続可能な開発レポートの細かい項目まで確認しよう。

B の違いが生まれる理由	C の違いが生まれる理由

5）SDGs を達成するために、学べることと教えられることを考えよう。

日本がその国に教えられること	日本がその国から学べること

6）明日の自分に提案しよう！「アフリカから学んだ、SDGs 達成のために自分ができること」